

本館図書館の貴重書

Peter Pan in Kensington Gardens, London, 1906

バリー 『ケンジントン公園のピーター・パン』

BARRIE, James M.



ジェームズ・バリー(1860 - 1937)は、スコットランドのキリミュー生まれの小説家、劇作家。ダンフリーズ・アカデミーとエディンバラ大学で教育を受け、新聞記者となり、短篇でしだいに名をなした。1890年から劇作を始め、《ピーター・パン *Peter Pan*, 1904》で人気を高めたが、その作風は都会的な機智と諷刺に富んでいる。トマス・ハーディ(Thomas Hardy)の親友で、彼について英国著作家協会の第4代目の会長になった。

『ピーター・パン』は、彼の小説《小さな白い鳥 *The Little White Bird*, 1902》を劇化したもので、5幕の幻想劇「ピーター・パン、大人になりたがらない少年 Peter Pan, or the Boy who wouldn't grow up」の初演以来、彼は一躍その名を世界に轟かせた。主人公のピーターは永遠に幼い少年のままであり、少女ウエンディと一緒に海賊を退治したり、妖精がいる国へ出掛けたりするといった、様々な幻想の世界が描かれている極めて楽しい劇である。

ピーター・パンの小説としては、前述のものに次いで《ケンジントン公園のピーター・パン *Peter Pan in Kensington Gardens*, 1906》さらに、《ピーター・パンとウエンディ *Peter and Wendy*, 1911》が出版されている。

なお、本書はロンドンで500部限定出版されたうちのNo.406であり、挿絵画家アーサー・ラッカム(Arthur Rackham)によるカラーの美しい挿絵が50枚入っている豪華版である。

原寸 28.3×22.4cm

『洋書百選』(1972年本学図書館刊行)より抜粋、加筆

図書館《私の使い方》

英米語学科4年次生 寺井 洋平

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生になってはるばる京都に来られた皆さんにとっては毎日が新しい友人との出会いや、たくさんの新しいことで刺激を受けていると思います。

私の図書館の利用の仕方についてお話ししたいと思います。まず図書館では授業期間中は、朝9時から夜9時まで、土曜日は夜8時までで、日曜日も開館している日があるので、開館予定表を常にチェックしておいてください。

英米語学科で学んでいる私にとって、第2閲覧室の資格関係図書コーナーにあるTOEICや英検などの図書を利用することは、試験に向けて勉強できるのでとても役に立ちます。また、第2閲覧室入ってすぐ左にあるEasy Readingのコーナーには各学科の皆さんに合った、読みやすい本がたくさん配架されているので、ぜひ利用してみてください。さらに体育会系のクラブに入ろうと思っている人は、第1閲覧室の雑誌コーナーに様々なスポーツの雑誌があるので見てください。私は、陸上競技部に属しているので、陸上の雑誌をよく閲覧しています。また教職課程を履修しようと思っている人は教職関係の雑誌を閲覧して、教育関係の最近の出来事に目を通したり、教員採用試験の情報を得ることができるので役立ててください。

最後に、図書館に入ってすぐのレファレンスにあるペーパーバックコーナーの本と第1閲覧室の辞書コーナーの向かい側奥にある「学生の皆さんに人気のある文学作品」のコーナーの本は私のお薦めです。本を読んでから映画を観るのもよし、映画を観てから本を読んでもより深い理解につながると思いますので、皆さん自身の学習の仕方を見つけてみてください。分からない事があれば、気軽にカウンターにいる人に尋ねてください。

それでは、充実した大学生活を送って、いい思い出をたくさん作ってください。

てらい ようへい